刻む会たより

No.64

2017. 3. 24

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会　共同代表　井上洋子・内岡貞雄・木村道江

事務局　宇部市常盤町一―一―九（宇部緑橋教会内）TEL0836(21)8003

カンパ振込先　ゆうちょ銀行　口座番号　01590-7-32405
名義　長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

年会費　《正会員》個人3，000円　団体5，000円　《賛助会員》個人1，000円　団体2，000円

ホームページ　http://www.chouseitankou.com

メール　kizamukai@chouseitankou.com（※アドレスが変更になりました）

在日ご遺族のDNA調査
～「私には二人の父親がいた」～

共同代表　内岡貞雄

☆はじめに

２０１７年1月13日（金）、和歌山県の在日ご遺族・權栄吉さん（犠牲者・權道文〈クォンドムン〉息子）を訪ねた。訪問の目的は栄吉さんのDNA採取を行うことだが、昨年九月に米寿を迎えられた栄吉さんは少し認知症があるようで、多少の不安を感じていた。しかし、栄吉さんの甥・藤井潔さん（京都在住）に同行いただいたので心強かった。後日、潔さんの妻が「夫は、首の痛みや頸椎の状態があまり良くないにもかかわらず、『刻む会』のお役に立つならばと、少々無理をしてご一緒したのだと思います」と言われた。本当に有り難いことだ。当日、JR和歌山駅付近で人身事故が発生というハプニングで、急遽、車で京都と栄吉さん宅を往復することになった。車の運転を買って出てくださった北澤さん（藤井さんの友人）に感謝いたします。

☆DNA検体を慎重に

昨年7月、韓国遺族会総会（テグ）で実施された一回目のDNA結果が、うまく検出されなかったこともあり、栄吉さんのDNA検体は丁寧に慎重に行う。口腔内（ほっぺたの内側）を「検査キット」（綿棒）で軽くこするようにして、左と右の頬をそれぞれ二十回ほど綿棒でこすってもらった。栄吉さんの妻、娘さん、お孫さんも遠巻きに見守ってくださった。数分後、「バッチリ！」の合図で、検体は無事終了した。

☆「新しい証言」

栄吉さんは、２０１３年（71周年）と翌年の72周年追悼式に参列された。「朝鮮人合宿所」の場所特定をはじめ、浜中集会所の北側、溜め池のすぐ近くに朝鮮人が暮らす数軒のバラック小屋があったことも指摘された。後に、その一軒が、山口武信元代表（故人）が家庭訪問を行った生徒さんのお宅である。この頃から山口先生の長生炭鉱水没事故の本格的な調査が始まる（１９７０年代初頭）。

栄吉さんから、いくつかの新しい証言を聞くことができた。「犠牲となった兄・權五文と弟・權道文は兄弟仲が良く、二人揃って宇部市内の小さな炭鉱で働いていた。宇部新川のサーカス興行を見に出かけた時、長生炭鉱の労務係に声をかけられて長生炭鉱で働くことになった。二人は、朝鮮人労働者の中では年長者だった。実父（道文）の社宅は大浴場近く、海岸の波の音が聞こえる場所にあったが、養父（五文）の社宅は石炭巻揚機のモーターの音や宇部線の電車の音が聞こえる山側であった。私は赤ん坊の頃、伯父（五文）の養子となった。労務課長の柴田さんは私たちに優しかったが、弟の方は柔道有段者で体格も良く、『朝鮮人寮』内の事務所で指示に従わなかった朝鮮人や逃亡した朝鮮人をよく叩いていた。その悲鳴が家まで聞こえた。実母はトロッコ運搬の仕事をした。何函運ぶといくらもらえるとよく話していた。

終戦後、私たち一家は社宅を追い出され、しばらく六畳ほどのバラック小屋で生活した（母と私と妹四人）。やがて和歌山の同胞を頼って、ここに移り住んだ。『私には二人の父親がいたが、二人とも水没事故で死んでしまった』。もっとも、実父の道文は事故当日、非番だったが、兄の五文が坑内にいると聞くや否や、坑内に駆け込み、再び帰って来なかった」。

栄吉さんは当時を回想して一気に話された。妻も娘さんもお孫さんも、生き生きと話す栄吉さんのご様子に驚きながらも喜んでおられた。

☆終わりに

ご遺族の高齢化が進む。日本政府への働きかけを急がなくてはならない。そういう意味で遺族のDNA検体は喫緊の課題となる。特に日本人ご遺族からのDNA調査は不可欠だ。

昨年、沖縄のご遺族が三名判明したが、皆さんのDNAについても早急に取り組まねばならない。それは厚生労働省へのアプローチする際のハードルを乗り越える端緒となるからである。

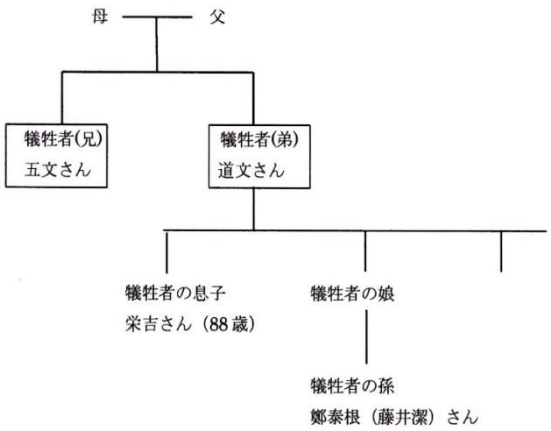
權栄吉さん（右から２人目）の自宅前で（2017.1.13）

DNA検体採取について

以前は、遺骨は海の中で溶けてなくなっているだろうと思われていました。が、塩川正隆さんとの出会いにより海の中でも骨は残っていることを知り、遺骨収集の必要性を痛感しました。そして、将来のために、年々亡くなっていく遺族のDNA検体採取をはじめています。１検体にかかる費用は約15000円で、採取できる検体も３親等以内に限られています。問題は山積みですが、一歩一歩努力を積み重ねて行きます。どうぞ今後ともご支援ご協力よろしくお願いします。　（文責　山内弘恵）

犠牲者　權道文さん（45歳）、權五文さん（49歳）

2012.6.28（木）　藤井潔さんより聞き取り



75周年 参列遺族

氏名	ハングル	続柄	犠牲者名	ハングル
金亨洙	김형수	甥	金四郎	김사랑
金鍾錫	김종석	息子	金彦俊	김언준
孫石川	손석천	孫	孫長平	손장평
孫普賢	손보형	曾孫	孫長平	손장평
申載鳳	신재봉	息子	申龍業	신용업
宋永順	송영순	孫	申龍業	신용업
李起炳	이기병	孫の夫	申龍業	신용업
楊玄	양 현	甥	楊壬守	양임수
尹玉基	윤옥기	娘	尹徳龍	윤덕용
宣徳禮	선덕례	甥の妻	李泰榮	이태영
全錫虎	전석호	息子	全聖道	전성도
崔今碩	최금석	娘	崔泰龍	최태용
黄鐘成	황종성	弟	黄鐘吉	황종길

※当日配布資料では、李鍾順さんの名前がありましたが、都合により来日できませんでした。また、日本国在住遺族松山美代子さんは犠牲者・曺在福さんの姪にあたられます。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

75周年犠牲者追悼集会報告

―「アボジー」「ハラボジー」「ヒョン」ご遺族の祈り 届け！―

75周年追悼式は、諸般の事情で例年より遅い2月18日（土）に行われました。当日は晴天に恵まれ400名という多数の参列者のもとで厳粛に執り行われました（韓国遺族会13名の他、尹玉基さんを加えて14名のご遺族、大韓仏教観音宗の僧侶、信徒ら約230名）。ご遺族皆さんのお顔が輝いておられたことが、私どもにとって大きな喜びでした。

「刻む会」共同代表の井上洋子さんが「75年経った今も、遺骨はいまだ海の底にある。このまま放置するのは許されないことであり、私たちは必ず遺骨を引き揚げ、故郷にお返しする」と挨拶しました。

「刻む会」はご遺族の思いに寄り沿いながら、今後も活動を進めて参りたいと思います。どうぞ皆様のご支援をお願いいたします。

黄鍾聲（ファン・ジョンソン）さんの証言（犠牲者の弟さん）

（兄の黄鍾培さんの証言含む。犠牲者：黄鍾吉さん享年18歳）

私は1942年4月14日、ヒョン（兄）が事故で亡くなって2カ月余り後に生まれました。事故の犠牲となった兄・鍾吉は（ジョンギル）は18歳という若さでした。私は8人兄弟の末っ子で、兄・鍾吉はわが家の長男で跡取でした。一番上に姉（2016年6月6日お亡くなりになった）がいたので、彼は二番目の子どもで、朝鮮半島（全羅北道茂朱郡）で生まれました。8人の子どもは姉が一人、あとは全部男です。

事故の日、兄は学校？（おそらく仕事だろうと思われる）から戻って来ることはなく行方が分からなくなりました。ある日、突然に、私たち一家に兄・鍾吉が長生炭鉱の水没事故で亡くなったという悲しい知らせが届きました。私たちはすぐ事故現場に行って鍾吉兄の遺体を捜しましたが見つかりませんでした。オモニは今までしたことのなかった「酒とたばこ」に浸る毎日になりました。両親と私たちは1945年8月まで宇部で過ごしましたが、解放後、韓国へ帰りました。

今は両親もお亡くなりになり、姉も昨年お亡くなりになったので、兄弟6人が韓国で生活しています。兄・鍾殷（ジョンウム）は2007年に、兄・鍾述（ジョンスル）は2007年・2013年・2014年・2016年に、兄・鍾培（ジョンベ）は2015年に、そしてこのたび、私が75周年追悼式に参加しました。犠牲者の追悼碑を建立していただき感謝いたします。この場を借りて御礼申し上げます。

（2017．2．18、文責：内岡貞雄）

観音宗による追悼の行事。晴天の中、厳かにとり行われました。

【フィールドワーク報告】

「地元の皆さんと『地元の歴史』」を学ぶ

共同代表　木村道江

【はじめに】

75周年追悼式から三日後の2月21日(火)、医療生協健文会「平和まちづくり学校」の主催で長生炭鉱のフィールドワークが行われました。当日はポカポカ陽気の晴天で良かったです。

私自身、ここ数年体調不良でフィールドワークには参加することが困難でしたが、今回、久しぶりに皆さんとご一緒できて、とても嬉しく思いました。今回は「地元の歴史を見つめよう」というテーマで、宇部・小野田にお住まいの皆さんが中心で、参加者も高校生から高齢の方々と幅広い年齢層でした。

【コース】

フィールドワークで訪れたのは次の通りです。まず浄土真宗本願寺派の「**西光寺**」(事故後、先々代の住職さんが作られた183の位牌安置)　↓　**長生炭鉱追悼ひろば**(2013年2月2日に追悼碑除幕式の場所。追悼ひろばの説明板や本名・創氏名対照一覧など展示)　↓　途中、海岸道路から「**朝鮮人寮**」を見る(ここは『募集』で強制連行された朝鮮人の若者が、強制労働をさせられた宿舎跡。「寮」は1939年に建造、一部は1990年代初頭まで残る)　↓　長生炭鉱「**坑口**」(数メートルの土砂下にあるが、2015年に熊本の業者による電気調査で「坑口場所」が特定)　↓　**ピーヤ**の見える西岐波海岸(二本のピーヤ〈排気・排水筒〉は水没事故犠牲者のいわば海の墓標。沖のピーヤから約七百メートル沖合の坑道の天盤が崩落、183人が犠牲)

【参加者感想の一部】

○高校の元恩師・山口先生が「長生炭鉱水非常を歴史に刻む会」の代表を長くしておられた方だとは驚きました。学生の頃もっとお話を聞き、みんなに知ってもらいたかったです。今日はとても勉強になりました。

(山口先生に担任していただいた方)

○「内岡さん!」、振り返ると、先日、追悼式の時に宿泊した旅館で、朝食のお世話をしていただいた方でした。現場仕事に出かけて行かれる宿泊の皆さんに栄養たっぷりの食事を準備して、皆さんの健康状態にもさりげなく気遣う様子を垣間見ました。その方が参加して下さってとても嬉しく思いました。

(「刻む会」内岡)

○午前中に講演された岡本正和さん(健文会理事)が「長生炭鉱殉難者之碑」を見てきたと言われました。この碑は長生炭鉱水没事故で亡くなった方々の顕彰碑(地域発展に尽くしたことに対し感謝する)であり、今もって、宇部市が「犠牲者をして(長生という)炭鉱に命をかけた人びと」と称賛してやまないという現実を思う時、この碑は反面教師として参考になるのではと思います。

(前出　内岡)

○私の住む隣りの市で、あのような出来事があり、犠牲者が多く出ていることを初めて知りました。戦時中のことといえば、どうしても広島・長崎に行きがちですが(いろんな戦争の悲惨さがあることを知りました)。今日学んだことを友人や先生に伝えて、またこれからの取り組みについて考えて行けたらいいなと思います。

(山陽・小野田市の方)

参加者の皆さんは、とても明るく前向きにフィールドワークに参してくださいました。地元の歴史を学ぶという積極的な気持を持ってくださったからであろうと思いました。感謝いたします。

西光寺(犠牲者のご位牌を前に)
2017.2.21

ちょっとビターなおとなの修学旅行

―山口県立大学学生企画―

共同代表　井上　洋子

２０１３年に念願の追悼碑が建立されてからは、フィールドワークの申し込みも格段に増えてきたように思うが、どちらかと言えば、人権教育意識の高い九州方面の関係者からの申し込みが多かった。地元山口県の人権団体や学生からの関心はほとんど見えない状況がずっと気がかりだった。

しかし、この度山口県立大学の国際文化学科を中心とした学生企画で、フィールドワークを引き受けることとなり、地元の若い世代に「負の歴史を語り継いでいく」またとない機会になったのではないかと心から嬉しく思い、私的には気合の入った案内となった。

新年早々の１月８日、寒い早朝に大学を出発したバスは、９時すぎに現地に到着し、15名くらいの学生の中には韓国からの留学生２名も含まれていた。

また、この企画に賛同された大人の参加者も４、５名いらっしゃった。

集会所での概要説明、追悼広場やピーヤへの案内を午前中に駆け足で進め、一行はその後「ときわ公園」内の石炭記念館を見学、また様々な動物たちにも癒された旅を終えたようだ。

企画者の一人Uさんは、2月18日、75周年追悼集会にも参加して下さり、「ご遺骨が引き上げられ、ご家族のもとに帰る日が一日でも早くくることを祈るばかりです」とコメントしてくれた。

＊皆さんの感想です。

1．今回長生炭鉱の歴史と悲惨な事故について深く学ぶことができたことはとても貴重な私の財産になりました。「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の皆さまの丁寧なお話のおかげで、当時の日本人が朝鮮半島出身の労働者の方々にどんなことをしてしまったのかを痛感し、この事実を語り継いでいくことの大切さを感じました。山口県出身者として、今回学んだことを伝えていきたいと考えています。（C）

2．長生炭鉱について知る良いきっかけとなりました。地元に住んでいても気がつかなかったことが沢山あり、負の歴史とどのように向き合っていくかは、地元に住む私たちにとって、大変重要なことであると感じました。私たちと同世代の子供が感じた、親が知らない地から帰ってこないという悲しみは計り知れません。どのような形であれ、この事実を知り語り継ぐ必要性を感じました。良いきっかけを作ってくださり、ありがとうございました。（S）

3．長生炭鉱とその詳しい歴史は知りませんでしたが、ツアーに参加してよく理解できたようです。戦後の遺産ですね。我が国は処理が下手なようです。いろいろ障害があると思いますが、眠る遺骨の一つでも返せば、日韓関係は劇的？に変わるでしょうかね。また、海にある二本のコンクリートの筒、あれがピーヤということも知りませんでした。何故、炭鉱の出水事故を炭鉱用語で「水非常」というのかもわかりました。（K）

4．今回、長年宇部市民でありながら長生炭鉱の水没事故についてほとんど知らずに、悲しい歴史には目を背けながら過ごしていたことに気付きました。当時ずさんな経営で危険な労働環境を強いられながら事故にあわれた朝鮮人労働者の方々のことを思うと胸が痛みます。また事故後も遺族は真実も知らされないまま理不尽な対応でずっと苦しめられていたことを知り、事実のままに次の世代に伝えられることを祈ります。（H）

会計報告（2016/12/01～2017/2/28）　（円）

【一般会計】

	科　目	年度予算	期間実績	実績累計	率	備考
	歳入					
1	会費	360,000	42,000	469,000	130.3%	
2	寄付金	1,200,000	367,410	822,401	68.5%	※
3	物販	60,000	6,200	20,100	33.5%	
	証言・資料集	30,000	6,000	13,600	45.3%	
	その他	30,000	200	6,500	21.7%	
4	雑収入	5,000	0	4,080	81.6%	
5	前期繰越金	0	0	0		
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合　計	1,625,000	415,610	1,315,581	81.0%	

	歳出					
1	事務費	55,000	4,430	53,892	98.0%	
2	広報費	280,000	46,800	136,549	48.8%	
3	会議費	30,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	992	7,835	78.4%	電気代
5	活動費	820,000	76,840	208,211	25.4%	
	学習会等	70,000	0	62,029	88.6%	
	追悼集会	500,000	0	0	0.0%	
	その他活動	250,000	76,840	146,182	58.5%	諸派遣、証言資料集
6	他団体会費等	50,000	0	13,000	26.0%	
7	雑支出	40,000	6,440	23,996	60.0%	
	手数料	20,000	6,440	18,996	95.0%	
	その他	20,000	0	5,000	25.0%	
8	予備費	40,000	0	0	0.0%	
	小　計	1,325,000	135,502	443,483	33.5%	
9	特別会計へ繰出	300,000	0	0	0.0%	
10	繰越金	0	280,108	872,098		
	合　計	1,625,000	415,610	1,315,581	81.0%	

※　寄付者（敬称略）

足立　龍枝　上田　道雄　大黒　春江　岡崎　絹江　兼重　健一　神谷　丹路　河合　喜代　菊池　登
木村　未央　香渡　清則　斉藤美代子　佐々木洋子　白川　猶子　杉山ユキコ　鈴木　忠実　須原　志保
澄田亀三郎　関谷　陽子　高橋　信　田上　中　田中　豊　崔　玉　任　崔　東　基　塚田　勲
富樫　康雄　中島　郁子　永冨　彌古　西森　邦子　林　修二　林　尚志　韓　孝　子　福川　寿子
藤井　泰子　藤本エイ子　松岡　節子　今村　元美　安村モミヨ
アジア共同行動山口　在日大韓基督教会小倉教会
在日本朝鮮人総連合会山口県本部　在日本大韓民国民団 山口県宇部支部　在日本大韓民国民団 小野田支部　在日本大韓民国民団 山口県地方本部　在日本朝鮮人総連合会 宇部小野田支部
日朝協会山口県支部　日本基督教団宇部緑橋教会　日本基督教団下関教会
無窮花堂友好親善の会　（その他匿名 11 名）

会員数（2017 年 3 月 16 日現在）

正会員：94 名、賛助会員：198 名（計 292 名）／寄付者：103 名／総計 395 名

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	1,978,116				
繰入金	0		繰越金	1,978,116	
合　計	1,978,116		合　計	1,978,116	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
前年度繰越金	1,517,660		DNA 検体採取鑑定	33,580	
繰入金	0		繰越金	1,484,080	
合　計	1,517,660		合　計	1,517,660	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

運営委員会報告（2016年12月17日～2017年3月18日）

事務局長　小畑太作

【委員会開催】

1. 第10回　1月20日（金）欠席2名。
2. 第11回　2月10日（金）欠席2名。
3. 第12回　3月16日（木）欠席3名。

【追悼ひろば】

韓国在住の美術家による、脚本『アボジは海の底』に沿った絵画設置の連絡調整。

【遺骨等収集】

1. 政府交渉のために国会議員に仲介を依頼するための交渉を準備。
2. 遺族データベースを引き続き拡充中。在日遺族1名、来日遺族4名、日本人1名のDNA検体を採取、内5名分の解析済。

【追悼集会】

1. 水没事故75周年追悼集会の実施と実施に向けた連絡調整。
2. 琉球朝日放送の事前取材に対応（1月31日）。

【宇部市長との協議】

第33回問題解決協議会に関して宇部市長に日程連絡を催促。

1. ピーヤの説明板について
11月30日(水)「長生炭鉱のピーヤ（旧長生炭鉱排気竪坑）に関する説明板についての要望」に対して宇部市長ならびに教育長より拒否の回答を12月16日付で得る。これに対して40余名の呼び掛け人と共に第二次募集を準備、今号の『刻む会たより』より募集開始(同封資料参照)。
2. ピーヤ等の保存
ピーヤの史跡登録の申請について、市教委が「所有者なし」を理由に取り扱わないことに対して12月8日付で異議申立書を提出。市教委より1月10日付で従前の理由で拒否の通知。
護岸工事によるピーヤ前海岸に降りられなくなること対して、改めてピーヤ正面の空き地利用の同意を求めるべく要望書作成に着手。
3. 市民への教育
「宇部市石炭記念館」への展示についてCG化を専門家に依頼中。
4. 追悼集会への協力
宇部市平和運動団体等活動費助成金制度という市民の知らない助成制度によって「宇部市日の丸會」「日本会議山口宇部」主催の「建国記念の日宇部奉祝大会」「天皇誕生日宇部奉祝大会」に年額約30万円の助成を過去30年以上に亘り助成していることが判明。当会の他、4団体の連名で是正を求める抗議と要望書を1月17日付で市長に提出。今年度の支出はなくなる見込みを得るも未だ正式回答待ち。また同制度に基づき、追悼集会への助成を1月24日付で申請するも、市長は「国際親善と友好に寄与」しているとしながら「平和行事とは判断し難い」とし2月17日付でこれを却下。
5. 「遺骨等の収集と返還」「追悼碑への協力」については時間が無く継続。

【関係資料収集】

紙媒体資料と映像資料のいずれも、デジタル化を進行中。将来的にはインターネット上にライブラリを解説し設置していく予定。

【資料の発刊】

1. 韓国で出版されている長生炭鉱に関する書籍『角が出た海』の日本語版出版に向けて遺族会を介して著者との連絡調整。
2. 証言・資料集『アボジは海の底―「刻む会」発足25年特集』を発刊。

【山口朝鮮初中級学校への助成金停止問題】

1. 山口県ネットワークとして12月16日付で山口県知事に再開の要望書提出。起草を担当。学事文書課がこれに対して回答と協議を約束するも未だ日程調整中。
2. ネットワークから山口県教委への質問と要望（11月30日付）に対して、県教委より12月20日付で回答。内容は私学法を盾に所管外であり回答しない旨。これに対し1月11日付で法の理解と運用の過ちを指摘し再度の質問と要望を提出。起草を担当。県教委は2月13日付で従前通りの回答。
3. ネットワークとして山口県議会へ次年度より再開する旨の請願書を2月28日付で提出。議会文教警察委員会が3月14日、わずか5分足らずの審議において賛成1名で少数否決。反対意見は予算計上不可の根拠として「北朝鮮」のミサイル発射との法的無知を露呈するのみ。
4. 宇部市議会への請願の『議会だより』への不適切な報告について12月20日付で議長より対応しないとの回答。1月4日付で再度の要望をするも未だ回答なし。

その他事項は「活動日誌」をご参照下さい。

活動日誌（前回たより以降）

※太字…詳細は記事にて紹介

2016年
▽12月23日(金)　『刻む会たより No.63』発送作業

2017年
▽1月8日(日)　山口県立大学FW
▽1月11日(水)　山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する山口県庁前座り込み・座談会
▽1月13日(金)　福井栄吉さんのDNA検体採取
▽1月14日(土)　真相究明ネットワーク事務局会議・飛田雄一さん出版記念会
▽1月20日(金)　第10回運営委員会
▽1月31日(火)　QAB（琉球朝日放送）取材
▽2月3日(金)　五藤美智子さんへの聞き取り
▽2月5日(日)　日本人遺族来訪
▽2月9日(木)　山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する山口県庁前座り込み・座談会・長崎由美子さんによる学習会
▽2月10日(金)　第11回運営委員会
▽2月17日(金)　追悼集会前日準備
▽2月18日(土)　長生炭鉱水没事故75周年追悼集会
▽2月19日(日)　韓国遺族との交流・DNA検体採取
▽2月21日(火)　医療生協健文会　平和まちづくり学校FW
▽2月24～26日(金～日)　国際交流切手まつり
▽3月4日(土)　松山美代子さんへの聞き取り
▽3月8日(水)　山口朝鮮初中級学校補助金カットに対する山口県庁前座り込み・座談会
▽3月16日(木)　第12回運営委員会
▽3月17日(金)　中元寿一さんへの聞き取り

切手まつり

2月24日～26日の3日間、防府アスピラートで開催された国際交流切手まつり。
今年度も後援団体として協力しました。
パネルを展示し、「アボジは海の底」ＤＶＤの上映などを通し、来場者との交流をはかりました。

『たより』同封物

☆春のフィールドワークチラシ
☆証言資料集３
☆長生炭鉱のピーヤ（旧長生炭鉱排気竪坑）に関する説明板についての要望書
☆振替用紙

定期総会のご案内

2017年5月20日(土)

14：00～14：30　総会
15：30～16：30　映画上映会
「払い下げられた朝鮮人」
［※関東大震災時朝鮮人虐殺記録映画・第2部作、呉充功監督］

年に一度の定期総会です。ぜひご参加ください。正会員の方には5月中旬に議案書をお送りします。出欠のご連絡をお願いします。